

平成 25 年度決算（正味財産増減計算書）

平成 25 年度決算の概要

1 全体の収益状況

平成 25 年度総収入は 25 億 5 千 8 百万円となり、平成 24 年度総収入対比で 6 千 6 百万円の減収、総費用は 25 億 4 千百万円となり平成 24 年度総費用対比 7 千 6 百万円の減、その結果当期正味財産増減額は 1 千 7 百万円のプラスとなりました。平成 25 年度は通学制養成講座収入が落ち込み、厳しい財政運営を強いられました。前年度に比べ事務所移転等の多額な設備投資がなかったため、公益目的支出事業を合わせた全体収支でプラスとすることができました。

平成 25 年度は公益目的支出計画 1 年目で 6 千 5 百万円の支出を見込んでいましたが、実施額は 6 千 3 百万円となりました。

2. 収 入

個人会費収入は、会員数が 1,162 名増加（平成 25 年度末 27,113 名）し入金と合わせ前年実績対比で 1 千 3 百万円の増収となりました。また賛助会員収入は 25 社 21 口増加し、262 社 346 口となり 130 万円の増収となりました。事業収入全体では認定試験受験料、通学制養成講座、シニアコース講座をあわせて前年対比で 9 千 2 百万円の減収となりましたが、キャリア講座、通信制養成講座、会員研修の収入が大きく伸びたため、合計で 7 百万円の減収で収まりました。25 年度の受託事業は、厚生労働省委託事業「こころの耳」2 千 3 百万円、東京都委託事業「若者総合相談」4 千万円等の 6 千 4 百万円となり、前年対比で 7 千万円の減収となりました。

3. 支 出

事業費全体では全国大会費用、通学制養成講座費用を合わせて 4 千 9 百万円の支出減となりましたが、キャリア講座、通信制養成講座の受講生増により合わせて 4 千万円の経費増となり、他の事業を含めたトータルで 450 万円の支出減となりました。

会報発行費は、本部において 25 年 9 月より発行体制を変更し経費削減に つとめましたが、会員数の増加による発行部数増があり前年対比で 3 百万円の増加となりました。管理費は昨年実績対比で 650 万円の削減となっていますが、昨年の一般管理費の中に東京支部移転に伴う原状回復費等経費 2 千 5 百万円が含まれているため、実質では 1 千 8 百万円の増加となります。

4. 公益目的支出事業について

平成 25 年度の公益目的支出は、実施事業として「相談室における相談事業」「公開講座」「産業カウンセリング体験講座」「無料電話相談」の 4 事業で 6 千 3 百万円の支出をしました。公益目的支出事業費は平成 24 年度 3 月末剰余金（公益目的支出財産）10 億 9 千 5 百万円の中から支出され、その他一般事業と分けて内閣府に申請されます。（総会議案書に平成 25 年度正味財産増減計算書として掲載）平成 25 年度は、公益目的支出事業で 6 千 3 百万円の赤字、その他一般事業で 8 千万円の黒字となっています。25 年度末公益目的支出財産額は、6 千 3 百万円を差引き 10 億 1 千 4 百万円になります。公益目的支出財産は内閣府が認可した事業以外で支出することができないため、公益目的財産額が 0 になるまで上記 4 事業を計画的に実施していくことになります。